

頂きました。今回受賞した作品は女房の実家(新潟県柏崎市)の近くの古里の風景です。今後の抱負は都内などに残る「緑青の家」と、女房の古里(山河の風景)を描いていきたいと思っています。

画歴は4年と浅いですが、皆様のご批評を頂き楽しく描き続けて行きたいと思っています。何卒よろしくお願いします。



新人賞

片桐金治郎(千葉)
「冬枯れ(手賀沼)」
(油彩)

受賞して思うこと
定年後絵を描き始めて10年、節目の年に今回の受賞となり感無量です。昨年マルオ力賞、今回3回目の出品作が新人賞、何か他人事の様な気がしてなりません。この機会に私が描く時に特に心がけていることを2・3述べます。

対象物をそのまま写しただけでなく如何に心情を描き込み、見る人に感動を与えることができるか、それが写真と違い絵画の最大の強味と思いついて挑戦し続けています。次に描き始めから高い完成度を求めず普通の絵が出来ればよしとする気持ちで、余り頭で考え過ぎない様筆を進めます。失敗を恐れず失敗を繰り返す事でその先に見えてくる何かを掴み取る事が出来ると信じています。幸い油絵は上塗り自由で手直しも出来て助かっています。

しかし気持ちと裏腹に高い完成度を求めてしまい苦しくなります。矛盾するようですがそこでもがき苦しみ、絵具同志、自分との間で格闘が始まる。ここが一番の醍醐味です。

こんな時私の息抜き方が一つ、別に用意した大さめのキャンバスに形、色の調和を全く無視し抽象的な絵を描きストレス解消し、ジャンルを超え楽しみながら描く、これも実践中です。要は仕上げ、完成を急がない、完成は永久に来ません。

受賞作「冬枯れ」は何も変化のない冬の沼地を題材に選んだ事、(私には見慣れた場所だが相当勇

気を要した。又、如何にして心情を込められるかに挑戦しました。特にこの点を中野 芳賀両先生より画評の中で高く評価して頂き最高の喜びでした。最後に会の皆様のご厚情に感謝申し上げます。有難うございました。二〇一三年十月十三日

工芸の部



東京都議会議長賞

福間 基(島根)
粉青青瓷釉壺
(陶芸)

受賞のお礼
このたびは東京都議会議長賞を頂き有難うございます。本来は見る楽しみでしたがいつか作る楽しみに変わりました。2000年に仕事も減り、黄色に胆礬の緑の黄瀬戸釉に魅せられ、六十五歳で陶芸を始めました。

元来こり性の性格で四年がかりで黄色に緑を習得いたしました。このたびの粉青青瓷釉は青磁土でなく、又酸化で焼く青磁で、とても作りにくい青瓷釉です。壺も大きく大変でした。とは申しても、人のまね、伝統、伝統工芸とは何ぞや、壁にぶつかりました。

人のまねで初めて、まねで終わるのではなくやはり、現代的に枠からはみ出したアイデアがなくは人のまねであり、古典で終わり伝統工芸とはいえないと思いはじめました。

型、枠からはみ出し、伝統を忘れず、新しいものへの挑戦がいかに難しい問題か知るに良いきっかけとなりました。今後とも頑張りたいと思っております。よろしくお願いします。



新日美大賞

鈴木 勇(茨城)
「古代の時」
(石彫)

この度は新日美大賞を頂き誠にありがとうございます。これも新日本美術協会の皆様のご指導と私を支えてくれる仲間がいたのでこの賞を頂くことが出来たと思っております。造形は360度の世界で表現することで、難しきもあり、表現する楽しみでもあります。今回の受賞作「古代の時」は、白御影石で時の流れを表現してみました。これからも創作活動に精進して参りたいと思っております。

最後になりましたが、今後の新日本美術協会のますますの発展をお祈りいたします。有難うございました。



新人賞

船渡義郎(東京)
「無常」
(陶芸)

感謝感激

初めて応募させていただいた公募展にて新人賞をいただく事ができ感謝感激です。本当にありがとうございます。

学卒以来おおよそ賞というものには無縁のサラリーマン人生を送ってきましたので、賞を頂くのは小学生以来ほぼ半世紀振りのことになるかと思えます。

陶芸を始めて2年余りとなりますが、そもそもこのきっかけは55歳を迎えるに当たり、将来のリタイア後のミニニティ作りであります。

た。もともと和食器が好きで旅先で窯元巡りなどをしていましたが、行きつけの天ぷら屋のご主人が自作の陶器を使用されている事を知り、家内と共に笑泥舎に入門した次第です。

これまでは、主として皿や茶碗など民藝的なものを作っていました。そもそも器用ではなく、また細かな作業を忍耐強く続ける事が不得手でしたが、下手なりに、雰囲気良く焼き上がることもあり、それが楽しくて作陶してまいりました。

以前より加藤哲朗先生より新日美展への応募を勧められていましたが、何かオプジェ的な大作を作ってみようと思念発起して6月頃より作品作りを始めました。初めはモアイ像がイメージにありましたが、作り始めると何かに取り憑かれたように夢中になり、気が付けば不気味なものが出来上がっていたと言ったのが正直なところです。

未熟さゆえ、本焼きでヒビが入ると言うアクシデントもありましたが、来年も応募させていただきますよう精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

自由投稿

卒寿の報告

北口夢石

昨年は世界一周の船旅に行かせて頂いたのですが、今年はと一月から毎月四国八十八か所お遍路のバスツアーに参加、来年一月の高野山御礼参りで結願いたします。其の間を縫って、茶道速水流の初釜、京都市美術館での昭和美術会展、新日美京都支部新年会、大阪工芸協会展、新日美京都巡回展、天理市芸術協会展、東大阪工芸展、東京都美術館での進展、と上半期も過ぎ、七月十八日より二十一日迄奈良市美術館にて、卒寿記念展を開催、陶芸教室作品展を併設、チャリティコーナーを特設して売上金は全額「国境なき医師団」と「日本国際民間協力会」に寄付いたしました。

九十歳になる迄に焼成し、手許に残った作品を選別、教室の方々の作品も展示出来、思い掛けない大勢の方々にご高覧頂き温いお言葉、励ましを頂き真に有難い事だと感謝でございます。

チャリティの売上も四十万円を超え、前述の二団体に折半して寄付、喜んで頂け、うれしく存じました。新日美京都支部から頂いた立派な花は入口に飾らせて頂き、教室の皆様からの九十本の赤いバラは正面に生けて頂き、搬入、飾付、設営から当番搬出迄、教室の方々のご家族まで御力添えを頂き、人生の一区切りが出来たとホッと思いました。其の上教室の皆様にも、慰労の食事席迄心配して頂き感謝でございます。

いよいよ十月、東京都美術館で開催の第三十七回新日美展に向って頑張ります。十二月には京都